

梶木良夫先生の訃報

本学科で長年、日本中世史分野を指導してこられた梶木良夫先生が、二〇二三年七月二十九日、ご病気のために急逝された。享年六八。ご定年まで残り一年半であり、お健やかにそれをお迎えになるとばかり思っていた矢先の、まったく予想もしていなかったできごことに、本学科の教員・学生みなが悲しみに暮れている。

梶木先生は、一九五五年一月二一日、大阪市にお生まれになった。一九七五年に大阪市立大学文学部に入學し、七九年の卒業後、引き続き同大学院に進学され、一九八九年に博士後期課程を終えられた。この間、高名な日本中世史家であった河音能平氏の指導のもとで研究を進められた。その後、兵庫県史の編纂事業などに従事し、一九九七年、日本中世史分野担当の講師として本学科に着任され、二〇〇三年に助教、二〇〇七年には准教授とられた。

梶木先生は、日本中世史分野のなかでもとくに前期の地方支配のあり方をご専門とされ、国衙や荘園の個別事例の分析を通じて、その解明を進められた。さらに、本学で古典芸能研究センターの兼任研究員となられたことで、中世の芸能史にも関心を広げ、現代の「田遊び」祭事に関するデータを中世史の資料として活用するための方途を提言した論文なども発表されている。

本学科では、概説講義・特殊講義・女性史・古文書学・漢文入門・入門演習・基礎演習など多くの講義・演習を担当されるとともに、二回生後期以降の日本中世史ゼミでも毎年、多くの学生を卒業論文まで導かれた。また、FD活動の統括責任者としその推進に努められるなど、全学的な学務においても重責を担われた。

梶木先生の優しいお人柄は多くの学生に慕われ、卒業生が梶木先生を訪問してきた場面に出会うこともしばしばであった。しかし、もう、あの温顔を接することはできなくなりました。

謹んで梶木先生のご冥福をお祈りしたい。

(文責 山内晋次)